

STOP 糖尿病

H29年 糖尿病ケアチーム通信 第7号

高齢者の低血糖について

高齢者の低血糖は重症化しやすい



糖尿病の治療の基本は血糖値の上昇を抑えることですが、高齢者の糖尿病治療では特別な注意が必要となります。重症低血糖は、認知機能を障害するとともに、心血管イベントのリスクともなり得るため、日本糖尿病学会年次学術集会で高齢者が目指すべき血糖コントロールの目標が発表されました。

一般成人の目標は、過去1~2ヶ月の血糖の状態を示すHbA1c値が「7.0%未満」ですが、これに対し高齢者では、健康状態や使用している薬の種類に応じて、目標となるHbA1c値が「7.0%未満」、「7.5%未満」、「8.0%未満」、「8.5%未満」のいずれかになります。

60歳以上の糖尿病のある人を対象に、HbA1cと合併症が起こる危険度の関連を調べたところ、HbA1c値が高いほど合併症の危険性は高くなっています。ところが、脳卒中の危険性について調べると、7%台がもっとも危険性は低く、値が高いほど危険性は上昇しますが、6%未満での脳卒中などの危険性はむしろ上昇していました。こうした結果が出たのは、**HbA1cが低い人の中に低血糖をしばしば起こしている人がいる**からだと考えられています。

高齢者が低血糖を起こしやすい理由

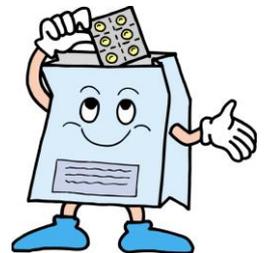
高齢者は**薬を分解する肝臓の機能や、薬を排出する腎臓の働きが低下している**ため、血糖値を下げる薬剤が想定以上に効いてしまうからだと考えられています。

加齢で自律神経の働きや認知機能が低下していると、低血糖の症状を自覚しにくい場合があります。加えて、高齢の糖尿病患者は動脈硬化が進行していることが多く、重症の低血糖は心筋梗塞や脳梗塞の発症原因になります。さらに、低血糖により意識障害や昏睡、転倒や骨折の危険が高まり、また重症の低血糖は脳に障害を与え、認知機能の低下にもつながります。

低血糖を起こしやすい薬

低血糖を起こしやすい薬剤は、「**インスリン製剤**」、「**スルホニル尿素薬 (SU薬)**」、「**速攻型インスリン分泌促進薬 (グリニド薬)**」です。

- ・インスリン製剤・・ノボラピッド注フレクスタッチ、トレシーバ注フレクスタッチライゾデグ配合注フレクスタッチ等
- ・スルホニル尿素薬 (SU薬)・・アマリール、グリメピリド、オイグルコン、ダオニール、グリベンクラミド、パミルコン、グリミクロン等
- ・速攻型インスリン分泌促進薬 (グリニド薬)・・ファスティック、スターシス、ナテグリニド、グルファスト、シュアポスト等
- ・SU薬やグリニド薬の配合薬・・ソニアス、グルベス



低血糖の早期発見・早期治療の重要性を強調し指導を行い、患者本人の理解力やADLが低下している場合はその介護者に対する指導が必要です。

～お知らせ～

次回の糖尿病チームの勉強会は、1月15日(月)別館2F講堂にて検査科担当で行います。